県社会福祉に関する要望への対応状況(令和3年8月)

新規継続	要望事項
[2]	
継続	1. 歩行移動の安全確保について
	視覚障害者の移動手段は歩行が主となりますが、視覚障害者が安全に歩行移動するためには誘導ブロックの敷設をはじめ、音響付き信号機やエスコートゾーンの整備などが不可欠となっております。また、公共交通機関においても、特に駅ホームからの転落防止のため、内方線付き点状ブロックやホームドアの設置が喫緊の課題となっております。しかしながら、誘導ブロックの敷設や音響付き信号機の整備は十分とは言えず、事故に至らないまでも障害者が危険性を感じることも日常的に起こっています。また、ホームドアにあっては県内における設置例がつくばエクスプレスに限られた状況です。このようなことから視覚障害者の歩行移動の安全を確保するため、さらに道路における誘導ブロック・音響付き信号機・エスコートゾーンなど安全施設の整備をはじめ、鉄道駅におけるホームの内方線付き点状ブロックの敷設、ホームドアの設置などの安全対策を充実するよう要望いたします。
対応	【警察本部】令和3年度予算24,120千円(特定交通安全施設整備費)
状 況	 ・令和2年度末現在で、ピヨピヨ・カッコーなどの音で歩行者の青時間継続を知らせる信号機(視覚障害者用付加装置)を448基、「信号が青になりました」等の音声で歩行者へ信号が変わったことを知らせる信号機(音響式歩行者誘導付加装置)を103基、合計551基の音響付き信号機を整備しております。 ・県警察で整備したエスコートゾーンは、令和2年度末で合計39本となります。
	【土木部】令和3年度予算47,000千円(道路橋梁維持費、自転車歩行者道等交通安全施設費) ・市町村のバリアフリー基本構想に基づく重点整備地区を中心に、市町村と連携しながら、歩道の視覚障害者誘導ブロック設置や段差解消等を行っております。
	【政策企画部】 ・駅ホームからの転落事故防止設備の整備について、沿線市町村等と連携を図りながら、鉄道事業者に対し要望を行ってまいります。 ※ 内方線付き点状ブロックについては、国で目標とする1日あたり利用者数1万人以上の駅について、県内の全駅で整備済。